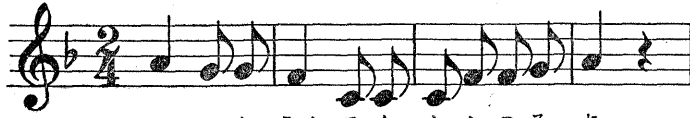
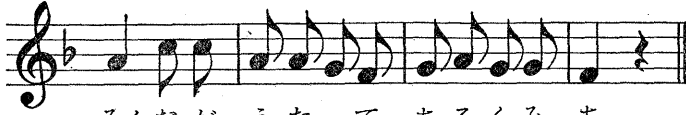


と、昼食後、静かにする為に、いつも讚美歌や守歌を歌ってやる習慣になつていたので、この時に、未完成のままになつていた歌を、二度ほど歌つてみたところ、ヒョ



えんそく えんそく あさのみち



みんなが うたって あるくみち

ッと最後のメロディーが子どもの方からとび出たので、やっとのことで、完成することができた。

初めから歌つてやると、前には無関心だった子どもも大喜びであった。

子どもたちは、どの歌よりも、気に入らなく、部屋に入ると、誰からともなく歌い、お誕生会には他のクラスの子どもたちの方で歌い、好評を拍した。

これが、もし、経験のあつたすぐ後だったならば、もつとらしく、そしてもつと良いものを作ることが出来たにちがいない。

保育効果をあげるために

テレビをどのように利用するか

八坂富子

私の園の研究

昨年度から「放送教育」にとりくんで今年は第二年度を迎えた。本年は問題を「テ

レビ」にしぼって一年間実践をした、ささやかな研究の一端をここに報告する。

この子どもたちには、もう一度の機会を与えることが出来ずに、卒業を迎えてしまつたが、でも、保育の経験に浅い私には大きい励みであった。

この次、受け持つ子どもたちには、この経験を生かして、もつと早い時期に、もつとたくさん、機会を与えてやりたいと思つている。

そして、子どもの持つ豊かな創造性を、音楽の面でも、のばしてやりたいと願っている。

(仙台・長町幼稚園)

研究の手順 1、実態調査 2、実践記録

3、テレビ視聴による保育効果——表現活動を通じての考察

実態調査（家庭調査）

昨秋文部省が全国的にテレビの影響調査を実施したので、その方法と内容によって、本園の園児ならびに県内の研究園に協力を願って資料を収集し、その結果を統計処理してみた。特にテレビは、その恩恵の受け方に地方差が著しいので広島県内の幼児の場合に範囲を限定した。

1、調査対象は家にテレビのある子どもだけで、質問紙を渡し、記入者は幼児の父母である。

未だ当地方では家でテレビの见られる子どもは全体の約二〇％である。したがって幼稚園で見るテレビに対して非常に新鮮な感覚でひきつけられる。

3、幼児の好む番組並びにその理由

幼児の一番好む番組を一つだけ挙げさせ、その好む理由について、十六の選択肢の中から三つの理由を選び出すと第一

第一表

理由	頻度	百分率
こっけい(喜劇的)である	六〇	二一・七
子どもの生活からとっている	四〇	一四・四
正義感や勇気を与えてくれる	三四	一二・三
変化がある	二七	九・八
活動が多い(冒険、スリル)	二二	八・三
現実の生活からとっている	一八	六・九
情操を育ててくれる	一五	五・四
未知の世界がわかる	一一	四・〇
主人公役者が好き、強い	一一	四・〇
科学の知識が広まる	一〇	三・六
主人公の演技がうまい	九	三・二
世間の様子がわかる	八	三・〇
主人公が正しい	三	一・〇
美しい	一	〇・二
怪奇的である	一	〇・二
その他	六	二・〇
合計	二七六	一〇〇・〇

表のようである。

娯楽性、生活性、道徳性、変化性、冒險性の順位で選ばれている。

4、幼児の生活に及ぼした影響

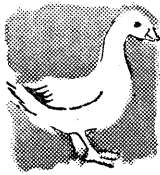
第二表は、生活習慣の上にあられた

第二表

生活習慣	頻度	百分率
親のいうことをきかなくなった	五	一・八
きくようになった	八	二・八
親を批判するようになった	一〇	三・七
親と話し合う機会がふえた	五二	一九・二
へった	一〇	三・六
手伝いをしなくなった	四	一・四
するようになった	六	二・三
食事時間が不規則になった	三四	一二・五
家に帰るようになった	四〇	一四・五
就寝時刻がおそくなった	六四	二三・五
規則的になった	二〇	七・四
朝寝坊をするようになった	一四	五・四
その他	五	一・八
合計	二七二	一〇〇・〇

第三表

健康面の变化	頻度	百分率
睡眠時間がへった	二九	二五・二
熟睡しない	二	一・七
食事の時よくかまない	二七	二三・四
目が悪くなった	五	四・三
合計(調査人員二五名中)	六三	五四・六



園の研究の歩み

阿部明子

整理してみた。記録の内容としては視聴中の状況ならびに教師の指導経過を事前、視聴中、事後、発展、評価にわけて記録する。また視聴以前の問題として、画面の鮮明度や放送内容の程度、用語、技術についても記録する。昨年五月から十月までの記録を集計したものをひろってみると次のようである。

1、視聴した番組(略)

2、画面の鮮明度並びに電波の状況

本市は広島の中継局から約六〇軒離れた地にあり、遠隔なものと地形の関係で、非常に感度が悪い。そこでいかにして良い条件を整えて見せるかについて、二年

間工夫と努力を重ねた。最初は暗室で見せたり、途中で視聴を中止することも再々であったが、現在では明るい環境で快く視聴出来るようになった。

3、視聴中の状況並びに指導(第四表)

4、事後指導並びに発展(第五表)

5、放送内容(程度、用語、技術)(略)

このようにして受け入れた視聴内容を子どもたちはどのように消化して身にかけているであろうか。絵画表現を通じて実験考察を試み、興味ある結果を得ている。その点については「マス・コミと幼児教育」を参照されたい。

(広島大学付属幼稚園)

私もも創園以来八年、もう少し理由のつく保育がしたい、つまり科学的な裏付けのある保育でなければならぬと考え、日々、努力を重ねてまいりました。

まず私どもがとりあげたのは、保育する相手の子どもたちが、本質的にどのような子どもたちであるか、つまり、子どもたちを知らないで保育することは出来ないと考え、個人式知能テストを施行することでありました。無論、知能検査にもそれぞれの特長があり、欠点のあるのはわかっていたのですが、これほど一般化され標準化されたもの、すなわち、科学的な操作をもったものは、ほかに見当らず、はじめに取りあげたわけです。研究所へ足を運びテスト施行を参観させていただいて、施行者としての態度や技術を学び、それぞれの担任の子どもたちをテストいたしました。

個人個人に接してゆっくり観察したことから、子どもたちとの交流がスムーズになったのはいうまでもなく、日常かかれていた子どもたちの能力を見出したことが